

御報告とおわび

独立行政法人化以前に勤務していた事務官が、退職後から本年4月まで当センターの事務費を不正に引き出し横領したと考えられる事件が発覚しました。

この件に関しては、本年7月に一部の事務官が本件を把握していましたが、昨日まで理事長および理事会への報告が行われず、理事長の説くガバナンスの心を職員の一部が理解していなかったことは、たいへん残念に思います。

事件について警察への被害申告を本日行いました。独立行政法人化以前に勤務していた職員の行為とはいえ、このようなことが当センターで起きたことに対して、国民に心よりおわび申し上げます。今後は警察の捜査に協力し、捜査の進展を待ちたいと思います。

独立行政法人化後、センター全体のガバナンスが確立しつつあり、大部分の事務官は正義感をもって職務に励んでいます。そのような事務官より理事長に報告があり今日のことことが判明いたしました。

今後も国立がん研究センターの果たすべき使命を実現するよう、全職員が一丸となって取り組んで行きます。

平成22年11月10日

国立がん研究センター 理事長 嘉山 孝正